

ボランティア活動への参加—非参加を規定する態度要因 (II)

—男子・女子青年の比較からの考察—

植村 勝彦

I. 問題

筆者はこの問題に関して、先に女子青年を対象とした研究を報告した(植村、1998)。女子のみを対象とした理由は、これまでの研究が示唆しているところによれば、同じ大学生とはいえ、男女間でボランティア活動に対する態度が微妙に異なること(山口・高木、1993)、またボランティア活動実績としても女性が圧倒的に多く、活動者獲得というコミュニティ心理学の実践的課題のうえからも優先度が高いと判断したことに拠っていた。

女子大学生を対象としたこの分析(重回帰分析・ロジスティック回帰分析・判別分析)結果からも、まず活動・非活動(ボランティア活動を過去にも現在も行っている者と、過去にも現在も行っていない者)に影響する要因について明らかにされたことは、

(1)活動に直接関わりのあるボランティア態度要因では、親和志向(相手と親しくになりたい・信頼関係が築ける、など)が活動群に、利己主義(自分の利益にならない・他人をかまわっている余裕はない、など)の変数が非活動群に大きく関与している。

(2)同じく賞賛的評価(活動する人は魅力的・本当に優しい人、など)や苦惱察知(相手の苦しみを和らげられる・気持ちを感じとりたい、など)、社会貢献(社会の一員として当然・人を助ける義務がある、など)の態度が非活動群を説明する変数として現れ、これは活動未経験からくる、ボランティア活動がもつ肯定的社会志向性に対する特別視、つまりボランティア活動というものが愛他的な崇高な精神のもとで行われている社会貢献的行動であるとの認知、およびその裏返しとしての、大変な行為でとても自分にはできそうもないものだという過剰負荷認識によるものと考えられた。

(3)青年のボランティア活動の動機を説明する要因として世上言われている自己向上志向態度(自分を知ることができる・自己実現できる、など)は、活動群への影響力は見られなかった。

(4)生活環境満足度要因の中では、地域生活満足度が活動群を説明する変数として現れ、これはボランティア活動のもつ本質からも納得できるものである。また、大学生生活満足度が活動群に、友人関係満足度が非活動群にそれぞれ有意な傾向を示した。

(5)アイデンティティの要因が活動・非活動に関与していることが明らかにされ、活動群が少なくともアイデンティティの確立途上段階にあるのに対して、非活動群はアイデンティティの基礎が再確立される発達段階に達した状況にあることが推測された。

次で行った非活動群のみを対象とした分析（重回帰分析：ステップワイズ方式）結果において、彼らの活動意欲（今後ボランティア活動に参加する意志）を規定する要因として明らかにされたことは、

(1)ステップワイズ方式の分析過程で、生活実態要因、生活満足度要因、アイデンティティ要因の変数群の投入までの段階では説明率が小さい。

(2)ボランティア活動に対する肯定的態度要因の変数を投入すると説明率が著しく上がり、この時点で社会貢献態度と苦悩察知態度がとくに活動意欲を高める方向に作用し、唯一他者共感態度（相手に喜んでもらえる・相手の生きる喜びを感じることができる、など）が意欲を低める方向に作用している。つまり、ボランティア活動への肯定的態度は、一般に活動意欲を高める要因となっている。

(3)ここに、最終ステップの要因としてボランティア活動に対する否定的態度を投入すると、説明率が50%を越える高い分析精度の結果が得られる。ただし、ここで説明率アップに寄与する変数は利己主義態度で、これ以前のステップで活動意欲を高める方向に影響力を示していた諸変数はほとんど力をもたなくなり、利己主義態度が活動意欲を低める圧倒的に強力な要因として作用していることである。つまり、この分析では、用意した変数の中には活動意欲を高める方向に作用する強力なものは見あたらなかった。

(4)このことは、別の見方をすれば、この分析結果に関する限りではあるが、現在ボランティア活動をしていない女子青年にとって、ボランティア活動をしない積極的理由（利己主義態度）の持ち主以外は、今後ボランティア活動への参加が十分期待できることを意味しているともいえる。

およそ以上の結果が示していることは、女子青年において、ボランティア活動者の獲得という実践的課題の達成にあたって考慮されるべき事柄として、次のことが挙げられよう。

(1)非活動者には、ボランティア活動が自分にとってメリットがないという否定的自己志向性と、ボランティア活動がもつ肯定的社会志向性に対する過剰負荷認識が見られる。別言すれば、未経験から来るボランティア活動への特別視の態度が非活動の背景に存在している。

(2)青年期の最重要発達課題としてのアイデンティティの確立が、ボランティア活動への参加状況に関与していることから、逆に、アイデンティティの確立が、社会参加（ボランティア活動）を通して獲得されるという仮説が成り立つ。

(3)そうであるとすれば、今日ボランティア活動と教育の関連をめぐって話題となっている学校教育の場への積極的導入が、まず参加させることでボランティア活動への特別視という態度からの変容を導き、ひいてはアイデンティティの確立に寄与する点からも有効であろう。ただし、これはボランティア活動の精神の本質問題（成績評価に加えることの是非など）を問わないという条件下での議論である。

(4)ボランティア活動に対する利己主義態度の持ち主の態度変容を可能にする方略を考えるうえから、この態度の形成に関わる背景要因を明らかにする必要がある。

以上が先の報告の要旨である。

その後、男子青年のデータを取る機会が得られた。そこで当初、このデータに対して女子青年に行った手続きとその結果の方針をそのまま適用して、全く同一の手法で分析を行い女子の結果と比較することを考えた。しかし先にも述べたように、乏しい先行研究の中からはあるが、男女のボランティア観が微妙に異なるとの指摘があること、また女子を基準とする必然性が理論的にも実践性のうえからも存在しないことから、今回改めて男女共通の基準のもとでの比較分析を行うこととしたものである。ただし、のちの「結果」の項でも述べるが、共通の基準を作成するとはいえ、同一の質問紙で女子に対して行った結果がすでに公刊されており、それを大きく覆すものを基準として採用することは、いたずらに混乱を持ち込むことになりかねない。そこで、先行研究（植村、1998）の手続きおよび結果を最大限生かすことで、つまり共通の基準を先行研究の基準に可能な限り一致させることで対処することとした。

本稿は、先行研究の女子の結果の最小限の変更のもとで、男子・女子の比較を通して、それぞれの活動者・非活動者の態度構造の共通性と独自性を明確にすることを目的とする。そしてそれが、ひいては活動者獲得の現実的対処方略などを見いだす一助となることを期待するものである。

II. 方法

1. 調査内容

調査票はすべて先の子青年のものと同一であるので、簡潔に記述するに留める。

①ボランティア活動態度の暫定尺度と項目：自己向上志向、社会貢献、他者共感、利己主義、愛他、他者配慮、活動偽善視、他者承認の8暫定尺度、各10項目を用意し、「確かにそう思う」から「全くそうは思わない」に至る5段階評定である。ただし、この暫定尺度は、すでに女子のデータで尺度の構成作業を行った段階で変更されており、今回も女子の結果を基準に尺度構成することとしている。

②アイデンティティ尺度：下山（1992）の作成した「アイデンティティ基礎尺度」と「アイデンティティ確立尺度」を、手を加えることなく借用している。

③生活環境満足度：家族関係、大学生活、友人関係、クラブ・サークル活動、余暇生活、アルバイト、地域生活の7領域、各4問からなる暫定尺度を用意し、「当てはまる」から「当てはまらない」までの5段階評定である。これも上記①と同じく、尺度構成にあたって立てられた事前方針にそって最終決定がなされる。

2. 調査対象者および調査期間

女子のデータは前報告のそのままである（n=270）。男子は、ボランティア活動者について

は、愛知・岐阜・三重・大阪の7大学のボランティア・サークルを中心に郵送および個別に配布し、非活動者については、愛知県下の私立大学2校での講義時間（2・3年生：男子主体）を利用して行った（若干名の女子データがこの調査で得られたが、既存の女子のデータに追加することはしていない。またこの調査で、後述するボランティア活動群の条件に適合する男子については、そちらへ加えた。）。このような有意サンプルによるデータ確保の方法のため、配布数および回収率は概数しか不明である。

調査は1998年6月に実施された。

表1は調査対象者の内訳である。先の女子の分析と同一の基準による方法を採用した。すなわち、活動者と非活動者の群別による分析にあたっては、全サンプル（ $n=277$ ）の中から「現在も過去も活動している者」を活動群（65名）、「現在も過去も活動したことのない者」を非活動群（165名）として選出する方法をとっている。この結果、過去には活動していたが現在はしていない14名、現在活動しているが過去には経験のない33名は、活動・非活動による比較の分析からは除外されている。男女間で4群の分布状況が異なっているが、もともとのサンプル確保状況が異なることから、比較自体に意味があるとは考えられない。

なお、男子の活動群のボランティアの内容は、障害者関係がもっとも多く（55.4%：ちなみに女子は35.3%）、次いで青少年（21.5%：女子17.6%）、老人（10.8%：女子28.2%）、地域活動（7.7%：女子10.6%）、文化・芸術（1.5%：女子3.5%）、その他（3.1%）となっており、女子に比べると障害者関係が多いこと、老人が少ないこと、活動の種類が乏しいこと（女子ではこれ以外に、スポーツ・教育7.1%、国際交流5.9%、自然保護・環境保全2.4%があり、その他という項目には活動者はいない）が見てとれる。

表1 対象者の内訳

	女子	男子
現在活動・過去活動(活動群)	85(31.5)	65(23.5)
現在非活動・過去非活動(非活動群)	117(43.3)	165(59.6)
現在活動・過去非活動	24(8.9)	33(11.9)
現在非活動・過去活動	44(16.3)	14(5.0)
合計	270	277

III. 結果および考察

本稿では、結果と考察をまとめるかたちで記述することとする。その理由は、同一の質問紙による女子を対象とした先行研究がすでに公刊されており、本稿の「問題」の項でもその結果および考察の概要を再録している。したがって、本研究がこれとの対比で展開されることから、結果と考察を分離して記述することに無理があるとの判断によるものである。

1. ボランティア態度尺度および生活環境満足度尺度の構成の方針

男女共通の尺度を改めて構成するとはいえ、全く新たに尺度構成することは、先の女子のみのデータによる分析結果、およびそこから得られた知見が意味をもたなくなることを表す。このことは、「問題」の項ですでに述べたように、先の研究を否定することにもなりかねず、いたずらな混乱を招くことが懸念され、研究成果の蓄積のうえからも有益な戦略とはいえない。そこで、今回男女のデータを用いて共通の尺度を構成するにあたって、次の方針を基本として定めた。

(1)女子データによる尺度構成の際に採用された尺度名およびその構成項目を、今回新たに構成する男女込みのデータによる尺度構成に際して最優先する。つまり、女子のデータに基づく結果を最優先させることである。

(2)この(1)の方針によって男女込みのデータで尺度構成したとき、信頼性係数 α の値が女子のデータのみのときよりも上まわっていれば、そのまま最終の尺度として用いる（ $\alpha < 0.65$ でも認める。これは、女子のみの尺度構成の際に $\alpha \geq 0.65$ を尺度成立の基準条件としたものの、実際にはそれに達しないながらも分析の必要性のうえから不十分を承知で採択した尺度があったことによる。今回の結果では大学生生活満足度、地域生活満足度がこれに該当した）。

(3)同じく、女子のみのデータの場合より α 値がたとえ下まわっていても、女子の際の尺度成立の基本条件として設定した $\alpha \geq 0.65$ を満たしていれば、そのまま最終の尺度として用いる。

(4)これ以外の場合に限り、尺度構成を改めて行うこととする。すなわち、男女込みのデータによる尺度構成の結果、女子データのみの α よりも値が小さく、かつ $\alpha < 0.65$ であるとき、改めて男女込みのデータを用いて新規に尺度の構成作業を行う。

この方針を採用した結果、(4)に該当する尺度はボランティア態度では「他者配慮」、生活環境満足度では「友人関係」の2尺度であった。それ以外の尺度は、先の女子のみのデータで構成された際の尺度名および構成項目が、そのまま今回も採用されることとなった。

尺度構成の結果が表2の中に示されている。

なお、ここでは記述しないが、女子のみのデータでの尺度構成の際に尺度成立のための条件として設定された4条件のうち、上記の α 係数に関わる条件以外の3条件、すなわち1. 天井効果・床効果を示す項目の排除、2. 固有値1.0以上の主成分が1個のみであること、3. 各構成項目の第1主成分負荷量はすべて0.5以上でかつ全成分中最大であること、に抵触する尺度・項目類は全くなかった。

2. 新規尺度の構成

新たに尺度構成された「他者配慮」は、女子のみのときの5項目構成から9項目構成へと増えており、しかもそれにもかかわらず α 係数値は.674（女子のみの尺度構成）から.643（全体）と下がっており、とくに男子において値の低いことが顕著である（表2参照）。これは山

表2 各種尺度の構成結果一覧

尺度名称(項目数)		基本統計量 M(S.D)	検定 t 値	固有値 (寄与率%)	信頼性係数 α 係数 折半法		活動群 M(S.D)	非活動群 M(S.D)	検定 t 値
自己向上志向 (4)	全体	13.64(2.69)	4.310	2.42(60.43)	.781	.793	14.41(2.43)	13.17(2.88)	4.690***
	女子	14.13(2.36)	***	2.39(59.64)	.774	.790	15.02(2.08)	13.74(2.57)	3.696***
	男子	13.16(2.90)	女 > 男	2.40(60.06)	.776	.771	13.60(2.64)	12.77(3.03)	1.926#
社会貢献 (6)	全体	20.11(4.12)	4.525	3.21(53.42)	.824	.875	20.33(4.49)	20.05(4.17)	0.662
	女子	20.69(3.57)	***	2.94(49.00)	.788	.866	21.22(3.86)	20.44(3.76)	1.453
	男子	19.34(4.47)	女 > 男	3.29(54.76)	.833	.878	19.03(4.94)	19.60(4.43)	0.854
他者共感 (5)	全体	16.03(3.12)	0.588	2.57(51.35)	.760	.767	15.77(3.16)	16.34(3.30)	1.748#
	女子	15.95(2.75)		2.47(49.44)	.743	.744	15.87(2.82)	16.15(2.92)	0.670
	男子	16.11(3.45)		2.65(52.99)	.774	.785	15.63(3.58)	16.48(3.55)	1.631
利己主義 (5)	全体	13.24(3.79)	6.734	2.97(59.41)	.827	.847	10.95(2.99)	14.82(3.72)	11.724***
	女子	12.18(3.40)	***	2.98(59.50)	.826	.837	10.15(2.67)	13.54(3.52)	7.774***
	男子	14.28(3.87)	女 < 男	2.82(56.39)	.805	.834	12.00(3.08)	15.73(3.61)	7.341***
苦惱察知 (5)	全体	15.38(3.06)	0.553	2.14(42.80)	.660	.710	15.26(3.04)	15.42(3.22)	0.487
	女子	15.45(2.82)		2.11(42.28)	.656	.684	15.55(2.85)	15.49(3.00)	0.157
	男子	15.30(3.29)		2.17(43.40)	.666	.729	14.88(3.26)	15.37(3.38)	0.999
他者配慮 (9)	全体	27.81(4.03)	2.081	2.37(26.32)	.643	.667	27.02(4.04)	28.38(4.13)	3.256**
	女子	27.32(3.92)	**	2.57(28.52)	.665	.666	26.62(3.86)	27.73(4.11)	1.933#
	男子	28.29(4.10)	女 < 男	2.28(25.28)	.615	.664	27.56(4.23)	28.85(4.09)	2.103*
活動体普視 (8)	全体	22.37(5.03)	5.853	3.40(42.46)	.798	.832	20.45(4.30)	23.59(5.36)	6.604***
	女子	21.13(4.46)	***	3.30(41.23)	.788	.821	19.71(3.77)	21.98(4.98)	3.696***
	男子	23.58(5.27)	女 < 男	3.31(41.33)	.785	.829	21.44(4.77)	24.73(5.34)	4.306***
賞賛の評価 (3)	全体	8.78(2.22)	0.765	1.87(62.49)	.698	.686	8.58(2.19)	8.93(2.40)	1.488
	女子	8.85(1.96)		1.82(60.66)	.675	.685	8.82(2.07)	9.02(2.09)	0.652
	男子	8.70(2.45)		1.92(63.89)	.716	.719	8.26(2.32)	8.87(2.60)	1.653#
親和志向 (4)	全体	14.81(2.56)	3.315	2.20(54.89)	.716	.744	16.01(2.27)	14.10(2.62)	7.563***
	女子	15.17(2.29)	***	2.12(53.10)	.700	.714	16.38(2.07)	14.49(2.22)	6.144***
	男子	14.45(2.76)	女 > 男	2.25(56.32)	.726	.757	15.53(2.44)	13.82(2.84)	4.253***
家族関係満足度 (4)	全体	13.19(3.45)	3.479	2.14(53.46)	.697	.736	14.18(3.38)	12.56(3.39)	4.737***
	女子	13.70(3.26)	***	2.19(54.65)	.708	.755	14.25(3.31)	13.22(3.43)	2.126*
	男子	12.69(3.55)	女 > 男	2.11(52.83)	.689	.711	14.09(3.49)	12.08(3.29)	4.082***
大学生生活満足度 (4)	全体	13.13(3.45)	3.963	2.05(51.18)	.677	.690	14.63(3.26)	12.25(3.40)	7.036***
	女子	13.71(3.03)	***	1.94(48.60)	.636	.671	14.98(2.73)	12.99(2.98)	4.842***
	男子	12.56(3.73)	女 > 男	2.09(52.29)	.694	.726	14.17(3.82)	11.72(3.58)	4.593***
友人関係満足度 (3)	全体	12.47(2.28)	7.717	1.78(59.26)	.655	.674	12.67(2.02)	12.39(2.46)	1.254
	女子	13.19(1.78)	***	1.66(55.20)	.590	.654	13.09(1.60)	13.56(1.66)	2.018*
	男子	11.77(2.49)	女 > 男	1.73(57.72)	.633	.642	12.11(2.36)	11.56(2.60)	1.482
余暇生活満足度 (2)	全体	6.19(2.13)	1.453	1.49(74.54)	.658	.658	6.29(2.14)	6.07(2.22)	1.004
	女子	6.33(2.01)		1.53(76.65)	.695	.695	6.59(2.00)	6.16(2.07)	1.466
	男子	6.06(2.24)		1.46(73.21)	.633	.633	5.91(2.28)	6.01(2.32)	0.291
アルバイト満足度 (3)	全体	10.58(3.26)	2.211	2.18(72.59)	.809	.798	10.55(3.39)	10.59(3.30)	0.130
	女子	10.89(3.09)	*	2.21(73.75)	.821	.807	10.58(3.26)	11.14(3.00)	1.265
	男子	10.27(3.39)	女 > 男	2.14(71.38)	.797	.788	10.51(3.59)	10.20(3.46)	0.598
地域生活満足度 (4)	全体	10.25(2.92)	0.784	1.80(45.06)	.574	.578	11.20(3.09)	9.76(2.80)	4.894***
	女子	10.35(2.88)		1.83(45.69)	.563	.576	11.35(2.98)	9.63(2.73)	4.251***
	男子	10.16(2.96)		1.81(45.14)	.588	.583	10.98(3.24)	9.84(2.85)	2.615**
アイデンティティの基礎 (10)	全体	24.88(4.46)	0.502	3.39(33.89)	.781	.779	24.53(4.40)	25.32(4.54)	1.757#
	女子	25.03(4.24)		3.49(34.87)	.787	.797	24.74(4.31)	25.40(4.38)	1.064
	男子	24.79(4.70)		3.40(33.97)	.780	.768	24.40(4.69)	25.27(4.66)	1.270
アイデンティティの確立 (10)	全体	26.83(4.63)	3.968	4.07(40.73)	.836	.845	27.83(4.38)	26.57(4.74)	2.667**
	女子	26.05(4.20)	***	4.11(41.10)	.837	.851	27.22(4.04)	25.44(4.24)	3.002**
	男子	27.60(4.89)	女 < 男	3.97(39.73)	.830	.843	28.72(4.70)	27.38(4.93)	1.868#

(注)折半法は奇偶法による

有意確率: ***Pr. \leq 0.001 **Pr. \leq 0.01 *Pr. \leq 0.05 #Pr. \leq 0.10 (以下同様)

口・高木(1992)が指摘した現象、つまり女子に比べ男子青年はボランティア活動の実行に際して他者配慮動機が強く働き、このことが男子の非活動の誘因となっていること、を現わしているのかもしれない。

一方、生活環境満足度の「友人関係」は、2項目から3項目へ、そして α 係数値は.608(女子のみの尺度構成)から.655(全体)と上昇している。ただし、女子では、3項目になった

ことで逆に α 値が.590と下がっている(表2参照)。とはいえ、先の女子のみの場合でも決して尺度として信頼できるほどの安定したものではなかったことからみれば、改善されたと考えるのが妥当であろう。

3. 尺度にかかわる男女の比較

最終的に構成された尺度は、表2に示されるように、ボランティア態度要因9尺度、生活環境満足度要因6尺度(他にサークル活動満足度が尺度構成されたが、サンプル全員がサークルに所属しているわけではなく、以後の分析では部分的にしか用いないためここでは扱わない)、アイデンティティ要因2尺度、合計3要因17尺度である。

これらを男女で比較すると、ボランティア態度要因に関しては、後述する因子分析の結果(表3)で示されるような肯定的ボランティア観を表わしている尺度では女子が、否定的ボランティア観を表わしている尺度では男子がそれぞれ高い値を示しており(有意差の有無にかかわらず、この原則に反した尺度は他者共感のみである)、男女でボランティア観にきわめて明瞭な差異が存在することが分かる。

生活環境満足度要因では、有意差の有無にかかわらず女子がすべてに対して得点が高く、これも男女で明瞭な差異が存在する。

アイデンティティ要因では、基礎尺度には男女差は見られないが、確立尺度では男子の方が有意に高く、また男女ともに活動群の方が非活動群よりも有意に得点が高くなっている。また興味深いことに、有意差はないものの基礎尺度では男女とも非活動群の方に得点が高くなっている。こうした現象が、後述する活動・非活動や、非活動群の活動意欲の背景要因に作用していると考えられる。

4. ボランティア態度尺度の因子構造

ボランティア態度尺度の男女別の相関行列から、SMCを共通性の初期値として主因子法により因子分析し、男女とも固有値1.0以上の2因子解でバリマックス回転を施した結果が表3である。男女に極めて類似性の高い解が得られていることが視察でも明らかであるが、Wrigley& Neuhouseの因子的類似係数(Harman, 1967)の算出によって確認すると、男女の第I因子同士の類似度が0.988、第II因子同士が0.957ときわめて高く、第I因子、第II因子とも男女同一の因子とみなしてよいことが明らかである。そして、先にも述べたように、第I因子はボランティアに対する肯定的活動観を表わし、第II因子は否定的活動観を表わすものとみなされよう。ちなみに、女子の第I因子と男子の第II因子の類似係数は-0.296、女子の第II因子と男子の第I因子は-0.373であった。

5. ボランティア活動・非活動を規定する要因

方法の項で設定した活動群・非活動群の基準に該当するサンプルを基準変数、既述の3要因合計17尺度を説明変数とする解析を行った。解析には、先の女子に対して行った3種類の

表3 男女別ボランティア活動態度尺度間の相互相関と因子分析（主因子解/バリマックス回転）

	相互相関									因子分析(女子)			因子分析(男子)											
	自 向	上 社	会 貢	他 献	者 共	利 感	己 主	苦 義	悩 察	他 知	者 配	活 處	動 偽	賃 善	的 祝	親 評	和 価	志 志	因 子	分 析	(女 子)	因 子	分 析	(男 子)
																			I	II	h ²	I	II	h ²
自 上 社 会 貢 他 者 共 感 利 己 主 義 苦 悩 察 知 他 者 配 處 活 動 偽 善 祝 賃 的 評 価 親 和 志 向	-	.469	.412	-.392	.378	-.048	-.376	.383	.610									.644	-.227	.466	.727	-.194	.567	
自 上 社 会 貢 他 者 共 感 利 己 主 義 苦 悩 察 知 他 者 配 處 活 動 偽 善 祝 賃 的 評 価 親 和 志 向		***	***	***	***		***	***	***									.689	-.193	.513	.834	.065	.700	
自 上 社 会 貢 他 者 共 感 利 己 主 義 苦 悩 察 知 他 者 配 處 活 動 偽 善 祝 賃 的 評 価 親 和 志 向		.535	-	.527	-.353	.464	-.065	-.364	.403	.493								.647	-.095	.427	.782	.049	.613	
自 上 社 会 貢 他 者 共 感 利 己 主 義 苦 悩 察 知 他 者 配 處 活 動 偽 善 祝 賃 的 評 価 親 和 志 向		***	***	***	***	***	***	***	***	***								.647	-.095	.427	.782	.049	.613	
自 上 社 会 貢 他 者 共 感 利 己 主 義 苦 悩 察 知 他 者 配 處 活 動 偽 善 祝 賃 的 評 価 親 和 志 向		.532	.646	-	-.118	.439	-.123	-.266	.472	.423								.647	-.095	.427	.782	.049	.613	
自 上 社 会 貢 他 者 共 感 利 己 主 義 苦 悩 察 知 他 者 配 處 活 動 偽 善 祝 賃 的 評 価 親 和 志 向		***	***		***	*	***	***	***	***								.647	-.095	.427	.782	.049	.613	
自 上 社 会 貢 他 者 共 感 利 己 主 義 苦 悩 察 知 他 者 配 處 活 動 偽 善 祝 賃 的 評 価 親 和 志 向		-.243	.008	.115	-	-.256	.302	.609	-.160	-.480								-.299	.547	.389	-.064	.667	.449	
自 上 社 会 貢 他 者 共 感 利 己 主 義 苦 悩 察 知 他 者 配 處 活 動 偽 善 祝 賃 的 評 価 親 和 志 向		***	***	*	***	**	***	*	***	***								-.299	.547	.389	-.064	.667	.449	
自 上 社 会 貢 他 者 共 感 利 己 主 義 苦 悩 察 知 他 者 配 處 活 動 偽 善 祝 賃 的 評 価 親 和 志 向		.558	.610	.501	-.161	-	.089	-.207	.414	.372								.646	-.005	.417	.713	-.046	.511	
自 上 社 会 貢 他 者 共 感 利 己 主 義 苦 悩 察 知 他 者 配 處 活 動 偽 善 祝 賃 的 評 価 親 和 志 向		***	***	***	**		***	***	***	***								.646	-.005	.417	.713	-.046	.511	
自 上 社 会 貢 他 者 共 感 利 己 主 義 苦 悩 察 知 他 者 配 處 活 動 偽 善 祝 賃 的 評 価 親 和 志 向		.026	.148	.039	.264	.176	-	.577	-.010	-.161								.071	.646	.423	.136	.515	.283	
自 上 社 会 貢 他 者 共 感 利 己 主 義 苦 悩 察 知 他 者 配 處 活 動 偽 善 祝 賃 的 評 価 親 和 志 向		*	***	***	***	***	***	***	***	***								.071	.646	.423	.136	.515	.283	
自 上 社 会 貢 他 者 共 感 利 己 主 義 苦 悩 察 知 他 者 配 處 活 動 偽 善 祝 賃 的 評 価 親 和 志 向		-.340	-.221	-.223	.589	-.288	.450	-	-.244	-.459								-.277	.880	.851	-.317	.850	.823	
自 上 社 会 貢 他 者 共 感 利 己 主 義 苦 悩 察 知 他 者 配 處 活 動 偽 善 祝 賃 的 評 価 親 和 志 向		***	***	***	***	***	***	***	***	***								-.277	.880	.851	-.317	.850	.823	
自 上 社 会 貢 他 者 共 感 利 己 主 義 苦 悩 察 知 他 者 配 處 活 動 偽 善 祝 賃 的 評 価 親 和 志 向		.527	.614	.590	-.001	.551	.108	-.222	-	.396								.625	-.050	.393	.746	.044	.559	
自 上 社 会 貢 他 者 共 感 利 己 主 義 苦 悩 察 知 他 者 配 處 活 動 偽 善 祝 賃 的 評 価 親 和 志 向		***	***	***	***	***	***	***	***	***								.625	-.050	.393	.746	.044	.559	
自 上 社 会 貢 他 者 共 感 利 己 主 義 苦 悩 察 知 他 者 配 處 活 動 偽 善 祝 賃 的 評 価 親 和 志 向		.639	.618	.563	-.252	.445	-.037	-.372	.507	-								.643	-.347	.534	.729	-.240	.589	
自 上 社 会 貢 他 者 共 感 利 己 主 義 苦 悩 察 知 他 者 配 處 活 動 偽 善 祝 賃 的 評 価 親 和 志 向		***	***	***	***	***	***	***	***	***								.643	-.347	.534	.729	-.240	.589	
寄与率																		30.001	19.023	49.027	39.498	17.093	56.592	

相関行列 右上：女子 左下：男子

方法、すなわち2値の直線回帰を想定した重回帰分析、2値にロジスティック曲線を想定してロジスティック回帰分析、2群に判別関数モデルを用いる判別分析を再度採用した。先の女子のデータでの分析の際に、3種類の結果とも同一の傾向が現れ（表4-1参照）安定していると判断されたので、今回は3種類での分析の必要性がないことも考えられたが、女子のデータといえども2変数に変更されていることから、再度試行したものである。

女子の結果について記述すべき点は、「問題」の項で5点に要約したことが表4-1にもほとんど変わることなく現れていることから、新たにこれに加えることはない。

男子も女子と類似の結果を示しており（表4-2）、基本的には女子の知見に同じといってよい。ここでは両者の比較のうえから認められる若干の相違点について言及する。まず、的命中率に男女の差がない点で、判別分析およびロジスティック回帰分析の2種類の分析では見劣りはしないのだが、重回帰分析の結果では重相関の値が低く、説明率（R²）で女子に10%もの差をつけられていることが見てとれる。用意した説明変数では、男子において分析の精度が芳しくないことを表していることになる。

男女で異なる点の第2は、生活環境満足度要因の現れ方である。女子の場合、大学生生活満足度が活動群に、友人関係満足度が非活動群にという関与の仕方をするのに対して、男子ではこれらの変数は活動・非活動とは関わってこない。家族関係満足度、地域生活満足度という、旧来型のいわばボランティア活動の要因としてオーソドックスなものが関与していることが見てとれることである。女子の活動・非活動の動機には、かつて千石（1994）が青年のボランティア活動群を分類する中で「ちょっぴり遊び感覚派」と名付けたような、大学生活や友人関係への満足度のいかんといった軽いノリの志向性が背後にあるかとも推測されるのに対して、男子では家族、地域という、同じく千石の名付ける「伝統的まじめ派」に該当する志向性があるようにも思われる。ただ、女子にも地域生活満足度が活動群に関与している

表 4-1 3 種の方法による活動群・非活動群の要因分析 (女子)

尺度名称	重回帰分析		判別分析		ロジスティック回帰分析	
	標準偏回帰係数	相関係数	判別係数	標準化判別係数	ロジスティック回帰係数	オッズ比
自己向上志向	.034	.263	.028	.067	-.028	1.028
社会貢献	-.111 \$.088	-.058	-.221	-.059	0.943
他者共感	-.043	-.042	-.030	-.086	-.152	0.859
利己主義	-.336 ***	-.466	-.186	-.595 ***	-.491 ***	0.612
苦惱察知	-.181 *	.013	-.123	-.364 *	-.319 **	0.727
他者配慮	.022	-.131	.011	.043	-.034	0.967
活動偽善視	.026	-.242	.011	.051	.089	1.093
賞賛の評価	-.183 **	-.038	-.176	-.367 **	-.330 *	0.719
親和志向	.408 ***	.408	.347	.747 ***	.791 ***	2.206
家族関係満足度	.045	.145	.026	.089	.094	1.099
大学生生活満足度	.142 *	.326	.093	.270 *	.185 #	1.204
友人関係満足度	-.146 *	-.147	-.177	-.289 *	-.487 **	0.615
余暇生活満足度	-.026 *	.109	-.026	-.052	-.066	0.937
アルバイト満足度	-.016	-.093	-.010	-.031	-.012	0.988
地域生活満足度	.126 *	.293	.085	.241 *	.270 **	1.310
アイデンティティの基礎	-.139 *	-.088	-.065	-.278 *	-.146 *	0.864
アイデンティティの確立	.126 *	.201	.060	.247 *	.104 #	1.110
R = .682 *** (R ² = .467)			判別の中率 = 81.0%		予測の中率 = 83.0%	
自由度調整済 R = .646 *** (R ² = .417)						

(注) + 値は活動群、- 値は非活動群に影響を及ぼす変数であることを示す

\$: 確率的には有意傾向 (Pr ≤ 0.10) にはないが、F 値 ≥ 2.0 というところで考察に際して考慮に値するとみなされる変数 (高木, 1998) [表 4・表 5 の重回帰分析に適用] (以下同様)

表 4-2 3 種の方法による活動群・非活動群の要因分析 (男子)

尺度名称	重回帰分析		判別分析		ロジスティック回帰分析	
	標準偏回帰係数	相関係数	判別係数	標準化判別係数	ロジスティック回帰係数	オッズ比
自己向上志向	.010	-.111	.007	.020	-.046	0.955
社会貢献	-.242 *	-.038	-.109	-.501 *	-.155 #	0.856
他者共感	-.138	-.100	-.081	-.285	-.127	0.881
利己主義	-.244 **	-.418	-.131	-.459 **	-.250 **	0.779
苦惱察知	-.155 #	-.011	-.095	-.321 #	-.135	0.874
他者配慮	-.031	-.066	-.015	-.064	-.015	0.986
活動偽善視	-.068	-.227	-.026	-.138	-.090	0.914
賞賛の評価	-.126 \$	-.083	-.103	-.259	-.120	0.887
親和志向	.426 ***	.256	.306	.853 ***	.542 ***	1.729
家族関係満足度	-.170 *	.264	.101	.339 *	.182 *	1.199
大学生生活満足度	-.017	.256	-.009	-.033	.012	1.012
友人関係満足度	-.016	.088	-.012	-.032	-.094	0.914
余暇生活満足度	-.044	-.009	-.039	-.091	-.087	0.917
アルバイト満足度	.014	.055	.008	.028	.016	1.016
地域生活満足度	.153 *	.189	.104	.310 *	.201 *	1.222
アイデンティティの基礎	-.167 *	-.087	-.072	-.343 *	-.136 *	0.873
アイデンティティの確立	.101	.118	.042	.208	.047	1.048
R = .609 *** (R ² = .371)			判別の中率 = 81.3%		予測の中率 = 86.1%	
自由度調整済 R = .561 *** (R ² = .315)						

(注) + 値は活動群、- 値は非活動群に影響を及ぼす変数であることを示す

ことから明らかなように、一般に地域社会とのかかわりが薄い青年 (大学生) において、コミュニティとの関わりの有無 (強弱・濃淡) がボランティア活動・非活動の基幹に存在していることが推測される。第 3 は、アイデンティティの要因のうち、基礎尺度は女子と同様の傾向を表すのに対して、男子では確立尺度は明瞭なかたちの寄与をしていないことである。これは、先に表 2 で見たように、基礎には男女差も活動・非活動の群差も見られないのに対して、確立では男女差があり、また活動・非活動の群差もあることが影響していると思われる。つまり、女子は男子に比べアイデンティティの確立度が全般に低い中で、活動群は非活

動群よりも明らかに確立度が高い（男子の全体平均並）ことが結果として影響力をもったのに対して、男子では、活動・非活動の群差がさほどに現われていない ($p \leq .10$) ことが影響したと推測される。

6. 非活動者の活動意欲を規定する要因

非活動者に対して、今後の活動意欲を「これから始めたいか」と問い、「そう思う(5)」から「そう思わない(1)」の5段階評定させたものを基準変数に、これまでの分析で用いた17変数に、新たに、関連すると思われる3つの事実確認変数（部活・サークル活動の有無、アルバイトの有無、家族・友人のボランティア活動者の有無）、および、生活環境満足度要因としての「サークル活動満足度」を加えた、合計4要因21変数を説明変数として、ステップワイズ方式の重回帰分析を行った。基準変数の平均と標準偏差は、女子：3.11 (1.22), $n=117$ ；男子：2.54 (1.17), $n=165$ で、女子の平均の方が有意に高い ($t=3.926$, $df=280$, $p \leq .001$)。

変数の投入順序は、事実確認の3変数、生活環境満足度7変数、アイデンティティ2変数、さらにボランティア活動態度9変数のうち、因子分析の結果2因子構造であることが明らかになったことを受けて、肯定的態度を表す6変数と否定的態度の3変数を分割する方式をとり、5段階の階層的投入によって行った。これらは先の女子の方針をそのまま踏襲している。その結果を示したものが表5である。

表5 男女別非活動者の活動意欲の要因分析：重回帰分析（階層的方法）

項目・尺度名称	標準偏回帰係数 (β)										単相関係数 (r)	
	I		II		III		IV		V		女	男
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男		
部活・サークル活動の有無	.056	.126 \$.034	.167 #	.006	.187 #	-.010	.210 *	.019	.227 *	.067	.219
アルバイトの有無	.056	-.001	-.020	-.092	-.065	-.101	-.087	-.113	-.022	-.110	.055	.013
ボランティア活動の有無	.107	.146 \$.085	.116 \$.032	.135 #	-.014	.087	-.081	.040	.117	.153
家族関係満足度			.011	.169 #	.032	.192 *	-.030	.094	-.034	.046	.037	.320
大学生生活満足度			-.012	.218 *	.018	.195 *	-.050	.165 #	-.042	.112	.074	.412
友人関係満足度			.042	.102	.078	.178 *	.023	.204 **	.027	.176 *	.118	.174
サークル活動満足度			.046	-.128	.027	-.114	-.010	-.144	-.100	-.104	.098	.195
余暇生活満足度			-.113	.016	-.118	.031	-.025	-.047	-.052	-.067	-.116	.060
アルバイト満足度			.021	.071	.076	.096	.056	-.007	.044	-.029	.055	.115
地域生活満足度			.228 *	.115	.210 *	.141 \$.118	-.009	.117 \$.010	.252	.200
アイデンティティの基礎					-.154 \$	-.223 **	-.110	-.142 #	-.147 #	-.170 *	-.152	-.087
アイデンティティの確立					-.081	-.019	-.059	-.047	-.035	-.003	-.137	.135
自己向上志向							.019	-.170 \$.041	-.203 #	.355	.351
社会貢献							.360 **	.514 ***	.213 #	.543 ***	.471	.556
他者共感							-.283 *	.041	-.149 \$.120	.167	.357
苦悩察知							.152	.106	-.036	.040	.387	.415
賞賛の評価							.127	.020	.065	.008	.400	.336
親和志向							.199 \$	-.025	.142	-.053	.425	.442
利己主義									-.539 ***	-.213 *	-.636	-.339
他者配慮									.019	.040	-.103	.032
活動偽善視									.034	-.042	-.338	-.332
重相関係数 (R)	.139	.212	.303	.461	.350	.513 ***	.622 ***	.676 ***	.746 ***	.701 ***		
決定係数 (R ²)	.019	.045	.092	.212	.122	.264	.387	.457	.556	.491		
増分 (ΔR^2)			.073	.167	.030	.052	.265	.193	.169	.034		

(注) +値は活動意欲を高め、-値は低める方向に影響を及ぼす変数であることを示す

女子の結果に関しては、これも問題の項で要約した4点と今回の結果が異なるところはない。ただ、若干変わった点は、先のデータでは、最終の第5ステップで活動意欲を高める方

向へ有意に関与する変数が得られなかったのに対して、今回は社会貢献態度が有意に現れ、また地域生活満足度がその傾向を見せたことである。

しかし圧倒的な影響力は活動意欲を低める要因としての利己主義態度で、この変数だけで変数全体の説明率 (55.6%) のうちの2/3に当たる35.0%の寄与率 (標準偏回帰係数×単相関係数=寄与率) を占め、先の分析結果と変わるところがない。女子においては、活動意欲を高める要因ではなく、活動意欲を低める要因が明らかにされ、これは後述する男子の結果とは明瞭に異なる点である。

男子に関しては、上に述べた点も含め、女子とは様相がかなり異なっていることが表5から読みとれる。ステップの変化にもかかわらず事実確認の要因、とりわけ部活・サークル活動の有無が最終ステップに至っても活動意欲を高める変数として有意に作用していること、生活環境満足度要因の中の友人関係満足度、大学生生活満足度、家族生活満足度の変数がステップごとに現れ方を変えながらも有意に作用していることは、女子の結果には見られない現象である。こうした変数が活動意欲を高める方向に作用しているということは、前項の「5. ボランティア活動・非活動を規定する要因」で女子の特徴として挙げた「ちょっぴり遊び感覚派」のイメージが、男子の非活動者の活動意欲を高める要因として作用しているということであろうか。

一方、最終ステップから明らかなように、女子とは反対に社会貢献態度が活動意欲を高める変数としてもっとも強く作用し、活動意欲を低める要因としての利己主義態度を大きく上回るものとなっている。 β 係数の数値的にも絶対値でほとんど同じであり、興味深いものがある。ボランティア活動をしていない男子にとって、ボランティア活動を志向することは社会貢献のためであり、それを支えているのが「ちょっぴり遊び感覚」という軽いノリということなのかもしれない。

ところで、活動意欲を低める変数として、利己主義的態度とともに自己向上志向態度が有意なものとして得られている。青年のボランティア活動を取りあげるとき、その動機として指摘される要因のひとつであるが、ここでは活動意欲を低める方向に作用する要因として現れたわけである。しかし、これについては、単相関係数とは符号が反対で、いわゆる抑圧現象が起こっていることが分かる。したがって、解釈や判断に当たっては慎重を期す必要があり、変数同士の選択の問題も含めて再分析に待つこととしたい。

なお、最終ステップの決定係数が示しているように、男子においては50%の説明率に達しておらず、女子に比べて分析の精度が低い。

IV. 結 語

最後に、女子青年の結果 (問題の項参照) と比較対照しながら、男子青年の特徴を要約することとする。

まず、本研究に用いた諸変数の男女間の比較では、

(1)活動に直接関わるボランティア態度要因では、肯定的態度（自己向上志向、社会貢献、親和志向、他者共感、苦悩察知、賞賛的評価）は女子が、否定的態度（利己主義、他者配慮、活動偽善視）は男子が、統計学的な有意の有無を問わず一貫して高いことが明らかにされた。ボランティア活動というものを、女子は肯定的に、男子は否定的に見ているといえよう。

(2)生活満足度の要因では、これも統計学的な有意の有無の関わらず、用意した6変数すべてに一貫して女子の満足度が高い。

(3)アイデンティティの要因に関しては、「基礎」には男女差はないが、「確立」には大きな差が見られ、男子が有意に確立度が高い。女子ではこの「確立」の度合いの差が、活動群と非活動群を分ける要因とみなされたが、女子の活動群といえども、男子の非活動群の平均値を下回っており、アイデンティティの確立度には男女間に差異の存在することが明らかにされた。

次に、活動・非活動に影響する要因について明らかにされたことは、

(4)男子も女子と類似の結果を示し、基本的には女子の知見（問題の項(1)~(5)参照）に同じである。ただし、説明率（ R^2 ）が女子に比べて低く、変数の選択の検討が今後に残されている。

(5) (1)で見たように、男子にはボランティア活動に対する否定的な態度が底流としてあり、これが作用してボランティア態度要因のほとんどすべてにマイナス記号（非活動群に導く）がみられる。例えば、社会貢献といった肯定的な態度すら非活動群に寄与しており、この傾向は女子以上である。

(6)女子との違いは生活満足度の要因群に現われており、家族や地域生活に満足しているという、伝統的まじめ派的態度が活動群に寄与していることである。

(7) (3)で見たように、男子はアイデンティティの確立度が全体に高いことがあり、この変数が活動・非活動群を分ける要因として作用していないことが女子と異なる点である。

さらに、非活動群のみを対象とした、活動意欲を規定する要因の分析で明らかにされたことは、

(8)女子に比べ、第IIステップ段階（生活満足度要因の投入）で説明率が上がり始め、その後のステップでは次第に増加する傾向を示しており、急激な説明率の上昇という現象は見られない。

(9)女子では、活動意欲を低める要因（利己主義）が圧倒的な寄与を誇っていたが、男子では意欲を高める要因（社会貢献）がそれと同様の働きをしている。活動をしていない男子青年にとって、ボランティア活動を志向することは社会貢献のためという認識であろう。

以上の諸結果から、男子青年の活動者獲得に際しては、概ね女子の結果で得られた内容を適用することができるが、とくに通奏低音として存在するボランティア活動への否定的態度に配慮しながら、従来型のオーソドックな社会貢献というボランティア活動観に訴えることが有益のように思われる。

文 献

- Harman, H. H. 1967 Modern Factor Analysis : Revised edition. Univ. Chicago Press
- 千石 保 1994 マサツ回避の世代 PHP研究所
- 高木廣文 1998 HALWINによるデータ解析 (HALWIN-5 マニュアル) 現代数学社
- 植村勝彦 1998 ボランティア活動への参加-非参加を規定する態度要因 -女子青年の場合-. コミュニ
ティ心理学研究, 2(1), 2-12.
- 山口智子・高木 修 1993 ボランティア動機の構造について. 日本社会心理学会第34回大会発表論文集,
224-225.

付表 ボランティア活動態度尺度の構成項目 (女子 n=270; 男子 n=277, 5段階評定の平均・標準偏差)

尺度	構 成 項 目	女子	男子
自己向上	・ボランティア活動を通して、自分を知ることができる。	3.86(0.76)	3.49(0.90)
	・ボランティア活動を通じて、自己実現できる。	3.43(0.79)	3.14(0.96)
	・ボランティア活動をすると、生きがいを見つけることができる。	3.27(0.76)	3.06(0.96)
	・ボランティア活動を通じて、人間を理解することができる。	3.57(0.74)	3.47(0.92)
社会貢献	・ボランティア活動に参加することは、社会の一員として当然のことだ。	3.19(0.93)	2.89(1.07)
	・人はお互いに助け合わねばならず、自分もボランティア活動をして人を助けるという義務がある。	3.29(0.98)	3.05(1.07)
	・ボランティア活動をして、お互いに助け合わなければならない。	3.62(0.79)	3.37(1.01)
	・ボランティア活動をするのは、当たり前のことである。	3.02(0.90)	2.73(1.01)
他者共感	・ボランティア活動はこれからの地域社会づくりにとって、大きな役割を果たすと思う。	3.93(0.75)	3.76(0.97)
	・ボランティア活動をすると、社会に役立つ。	3.64(0.74)	3.54(0.90)
	・ボランティア活動をすると、その相手に喜んでもらえる。	3.38(0.80)	3.45(0.92)
	・ボランティア活動をすると、その相手の生きる喜びを感じることができる。	3.22(0.80)	3.22(0.92)
利己主義	・ボランティア活動をする、その相手の苦しみが和らぐ。	3.01(0.77)	3.12(0.95)
	・ボランティア活動をする、思いやりの心を養うことができる。	3.86(0.75)	3.69(0.92)
	・ボランティア活動をしている人は、その相手の苦しみを十分に分かっていると思う。	2.50(0.82)	2.64(1.05)
	・ボランティア活動のような、自分の利益になりそうもないことには、あまり関わりたくない。	2.10(0.79)	2.57(0.99)
苦悩察知	・ボランティア活動に参加することで、自分か拘束される気がして、いやである。	2.32(0.88)	2.59(1.04)
	・ボランティア活動をするほど、他人のことをかまっている余裕がない。	2.53(0.93)	2.89(1.11)
	・ボランティア活動は面倒だ。	2.59(0.97)	3.11(1.01)
	・ボランティア活動は、犠牲にするもの大きい。	2.64(0.83)	3.12(1.01)
他者配慮	・ボランティア活動を通じて、何かに苦しんでいる相手の気持ちを感じとりたい。	3.37(0.86)	3.23(1.00)
	・相手の苦しみを自分ももつことで、その人の苦しみを和らげることができる。	2.92(0.86)	3.00(0.95)
	・ボランティア活動の相手の、本当の苦しみを私も受けたい。	2.46(0.83)	2.41(1.01)
	・ボランティア活動をするなら、相手の気持ちと同じ気持ちをもつべきだ。	3.25(0.94)	3.28(1.09)
活動偽善	・ボランティア活動をして自分が利益を得るより、相手が利益を得るほうに喜びを感じる。	3.44(0.86)	3.39(0.98)
	・ボランティア活動は、相手のプライバシーの侵害になることが多い。	2.69(0.72)	2.84(0.85)
	・ボランティア活動を受ける人は、気兼ねしながら受けていると思う。	2.98(0.86)	3.06(0.86)
	・ボランティア活動は、相手の自律しようとする気持ちに水を差す。	2.38(0.69)	2.67(0.89)
活動偽善	・ボランティア活動をしている人は、受ける側の人への気配りが足りないと思う。	2.90(0.73)	2.99(0.88)
	・相手のプライバシーを侵したり、自尊心を傷つけるのではと思うと、活動にためらいを覚える。	3.00(0.90)	3.09(0.93)
	・相手が目立ってしまって、嫌な思いをさせたくない。	3.21(0.89)	3.22(0.99)
	・相手がまわりから特別視されるようになってはかわいそうだ。	3.67(0.79)	3.69(0.96)
活動偽善	・手助けすることによって、相手の自尊心を傷つけない。	3.57(0.91)	3.57(0.94)
	・自分は他人に干渉されたくない、ボランティア活動で他人を干渉するようなことはしたくない。	2.92(0.97)	3.17(0.98)
	・ボランティア活動は、なんだか親切の押し売りのような気がする。	2.69(0.93)	2.95(1.01)
	・ボランティア活動は、する側の独りよがりな行為だと思う。	2.40(0.73)	2.71(0.87)
活動偽善	・ボランティア活動は、所詮する側の自己満足に過ぎない。	2.78(0.86)	2.91(1.05)
	・ボランティア活動には、なんだか偽善的な感じがある。	3.11(0.97)	3.32(1.13)
	・ボランティア活動の中心になっている人とは、なんとなくなじめない。	2.50(0.86)	2.80(1.05)
	・ボランティア活動は暇な人がすればよい。	2.35(0.93)	3.32(1.13)
活動偽善	・ボランティア活動をしたところで、社会が良くなるとは限らない。	2.74(0.90)	3.24(1.03)
	・ボランティア活動で身の回りの世話はできても、精神的な安らぎまでは与えられないと思う。	2.55(0.82)	2.86(0.98)
	・ボランティア活動をする人は、魅力的だ。	3.16(0.88)	3.02(0.99)
	・ボランティア活動をする人は、本当に優しい人だ。	2.73(0.84)	2.80(1.11)
親和志向	・ボランティア活動は、人から尊敬される。	2.96(0.80)	2.88(0.96)
	・ボランティア活動をして、相手と親しくなりたい。	3.53(0.90)	3.29(1.04)
	・ボランティア活動を通じて、人間の信頼関係を築くことができる。	3.80(0.73)	3.75(0.80)
	・ボランティア活動をすると、さまざまな人との人間関係が親密になる。	3.92(0.75)	3.90(0.91)
親和志向	・ボランティア活動をする人が増えれば、地域社会の活性化につながる。	3.93(0.75)	3.52(0.96)